

## 事業報告書（令和7年度）

事業名 山南地区地域活性プロジェクト

団体名 山南地区地域活性プロジェクトチーム

担当者名 東森 貢

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

#### 【①オーガニックコットンについて】



- 日時 令和7年9月28日（日）
- 場所 福祉交流プラザ山南
- 参加対象者 山南学園の児童生徒、地域住民
- 参加人数 16人
- 山南学園のボラティア生徒と地域住民が栽培、収穫したオーガニックコットンを使って織物体験講座を行なった。講師の先生と昨年体験した山南学園の生徒が助言し、簡単な綿織物を織った。講座後希望者にオーガニックコットンの種を配布した。

#### 【②古墳群について】

- ・ 令和7年12月22日に大宮地区、春日神社周辺の古墳群で、山南学園9年生10人と地域の住民3人で通路の整備を行い、昨年度完成した看板の設置を行った。



・令和 8 年 1 月 5 日にプラザ山南との共催で「新春ウォーキング」を行なった。山南学園 9 年生 3 名が案内役として参加した。参加者は 18 名で約 1 時間の古墳を巡るルート歩いた。



## 2. ESD の視点

### ① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

・地域に出かけ、自分たちの調べてきた山南地域の良さを伝えたり、地域をよりよくするために清掃活動やボランティアをしたりすることで、山南地区の歴史や自然の良さを再確認し、地域を大切に守っていこうという思いを持つことができた。また、新たな地域のイベントに主催者とともにボランティアとして参加することにより、地域の方とのきずなが深まり地域の方のふるさとに対する思いに気が付いた。

・自分たちの生活している場所に古墳があり、実際に現地を訪れ整備したり、訪れる人のことを考えた活動をしたりすることを通して地元の歴史に興味を持ち、ふるさとを大切にしていこうとする態度が生まれた。

### ② どのように学び合いを取り入れたか

・地域でオーガニックコットンの植え付けや収穫を呼びかけることで、地域の方とそれに参加した子どもたちとの中で地域の良さに目を向けることができた。

・9年生の 1 グループが古墳に詳しい地元の講師の方や住民の方とともに古墳を訪れ知見を広げ、ほかのグループの生徒に学んだことを発表会の中で伝えた。

### ③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

・子どもたちが知った山南地域の良さを、芸術祭やお祭りなどで、地域の人や県外からくる人にアピールする実践の場とした。

・古墳の場所を案内する看板や古墳のある場所を示す地図を地元の人と一緒に作り、訪れる人を増やす工夫について考えた。

## 3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

取り組みをすることにより、地域の人々の思い、地域の歴史、自然の良さを昨年度以上に意識することができた。知った上で、地域の良さをたくさんの人に知ってもらいたいという思いが高まり、発表や発表ボードづくり、ボランティアにつながった。また、ふるさとを大切に、地域のためにできることを行なっていこう、という意識が子どもたちの中に広がっただけでなく、子どもたちの姿に刺激を受けた地元の方々が活動に協力してくだ

さり、子どもたちと地元の方との関わりが増えたことが持続可能な町づくりにつながっている。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

今年度は、綿花への取組は、地域の活動が中心となっていた。山南学園との協働が進むよう働きかけていきたい。古墳の活動では、地域の方とのつながり、公民館とのつながりを生かし、山南学園の子どもたちの興味関心に合わせながら、今年度の成果を継続していきたい。山南地区に住んでいる子どもたちが古墳について学び、地域の歴史や自然について知ることが持続可能な町づくりにつながっていくことになる。また、助成事業による経済的な支援が活動の工夫につながる。